

第6回 田浦小学校跡地活用検討協議会 会議録

■日 時：令和8年3月23日（月）19：00～21：00

■場 所：田浦コミュニティセンター 第2・3学習室

■出席者：協議会委員 出席10名 欠席1名

傍聴者 4名

FM推進課（事務局）課 長 山中 理

主 査 土田 正和

主 任 岩崎 勝美

主 任 薄井 良真

教育政策課 課 長 飯田 達也

田浦行政センター 館 長 柳井 栄美

三菱UFJリサーチ&コンサルティング 西尾真治（ファシリテーター）

■内 容：＜議題＞

学校跡地活用の検討

・報告書の確認・共有

概 要

1 開会

2 事務局挨拶

（FM推進課長）

皆様こんばんは。本日も田浦小学校跡地活用検討協議会にご出席いただき、ありがとうございます。また、先日はお忙しい中、熱海市での学校跡地活用の視察にご参加いただき、ありがとうございました。

本日は第6回の協議会ということで、約1年にわたって開催をしてきた協議会の最終回となります。皆様からのこれまでの検討経過として、横須賀市に向けてご提案いただくものとしては、本日お手元の「資料2 検討結果報告書」で、こちらが最終的にご提案いただく報告書となります。

事務局といたしましては、これまでにいただきましたご意見をできるだけ文字に落とさせていただいたつもりです。改めまして、跡地の方向性について報告書にお目通しをいただき、協議会の総意として考え方に齟齬がないか、想いがしっかり反映されているかという点をご確認いただきたいと思っております。

3 議題

（1）学校跡地活用の検討

（事務局）

事務局が資料の内容を説明。説明の概要は以下のとおり。

① 田浦小学校跡地活用案の検討 **資料 1**

- 資料 1 (P 1)は協議会の流れと目的であり、本日、第 6 回の位置づけを示している。本日の目的は報告書の確認と共有である。
- 地域意見を踏まえた報告書の内容をご確認いただき、合意をいただくものになる。
- 資料 1 (P 2)は今後のスケジュールを記載している。第 4 回協議会で一度同様の体裁でスケジュールを示しているが、改めてスケジュールの見直し等を一部行った。
- 変更点は以下のとおり
 1. 「暫定利用」として閉校後、建物（校舎）と特に体育館等を使って暫定利用いただいているところであるが、「トライアル」を追加した。
 2. 令和 8 年度に、トライアルの実績調査、地域との意見交換、民間事業者に実際の活用案について意見を聞くサウンディングの 3 項目を追加し、トライアルを実施していくことと、それらを踏まえて庁内案を完成させるスケジュール感としている。
- 庁内案の確定後、令和 9 年度に実際に運営事業者を募って選定し、施設改修につなげていくということで、第 4 回協議会でお示ししたスケジュールから少し変更している。
- 活用案に応じた施設改修は、前回、半年程度で見ていたが、現在は 1 年間と見て、本格利用の開始が令和 11 年度の当初という形でスケジュールを見直した。
- 資料 1 (P 3)では、令和 8 年度の取り組みとして以下を予定している。
 1. 「トライアルの募集と実施」として、年末にかけてトライアルを進めていきたいと考えている。従前から体育館などを使っている活動等は、施設改修前まで継続し、併せて本格活用につながる新たな取り組みを実施できる仕組みを設ける。
 2. トライアルの実績調査は令和 9 年の 1 月から行い、実施状況の調査結果から課題の洗い出しを行って、本格活用に反映させていく。
 3. 地域説明会を令和 8 年 4 月 29 日に行い、地域の皆さまに今回の検討結果報告書と、今後の跡地活用の検討スケジュールや進め方を説明していく。
 4. 5 月以降は、庁内案の策定に向け、地域の皆様の声を引き続き反映していくため、意見交換を実施していく。
 5. 併せて 5 月以降にサウンディングを実施し、民間事業者の参入や持続可能な運営の可能性について調査をしていく。
 6. 跡地活用案（庁内案）の策定は令和 9 年 3 月を目標とし、トライアルの成果、課題、地域や民間事業者の意見を踏まえ、具体的な活用について実現可能性を検討し、庁内案を 8 年度末までに策定する。

② 田浦小学校跡地活用検討協議会 検討結果報告書案 **資料 2**

- ◆ 第 5 回で一度案をお示ししているものであるが、前回の意見を踏まえて修正を行った。変更箇所は以下のとおり。
- ◆ 「はじめに」（1 ページ）
 - ページ下段に校舎の外観写真を追加。

- ◆ 「跡地活用のコンセプト（大きな方向性）」（4 ページ）
 - コンセプトを「田浦の未来をデザインする」に修正。
 - 前回までは「田浦の未来へ繋ぐ」という書き方であったが、今の田浦を未来につなげていくというよりは、新しくここから描いていく、作っていくという趣旨の文言が適切というご指摘をいただいたため、「デザインする」に変更。
- ◆ 「跡地に求める機能(カテゴリー)・施設と具体案」（5 ページ）
 - 一覧の記載方法として、既に実施しているものや実現しやすいと思うものを特筆する形で記載していたが、分かりにくいというご指摘であったため、「※1、※2」で、既に実施している取り組み（広域避難所など）と、すぐ実現しやすい（取り組みやすいと思われる）ものとで分けて記載。
- ◆ 「活用イメージ（エリア別）」（6 ページ）
 - 写真をエリアごとに追加。
 - 校舎①②の文章部分で、建物の安全性に配慮し最小限の利用に努めること、また早期解体を求めるだけではなく、「次の活用につながるよう」早期解体を求めるという文言を追加。
- ◆ 「活用イメージ（エリア別）」（7 ページ）
 - 「災害避難所」として体育館までを含めていたものを外し、「選挙投票所」として使える図に修正。
- ◆ 「暫定的な活用（トライアル）について」（8 ページ）
 - 暫定利用には2種類あるということで、「既存の活動・機能（これまで通りの暫定利用）」と「新たな活動（トライアル）」を表形式にして種別が分かりやすいように表記し、具体例も交え、暫定利用のイメージイラストを追加。
- ◆ 「協議会等の開催状況」（11 ページ）
 - 先日実施した網代（熱海市）の先進事例の視察を追記。

【質疑・意見交換】

（ファシリテーター）

- 本日が最終回で、主なテーマは「報告書の確認・共有」となる。これまで一年間議論してきた内容が最終的な報告書として適切に整っているか、意見をいただきたい。
- 前回から今回にかけて大きく追加された点は、「来年度（令和8年度）の進め方」である。具体的には4月29日に地域説明会を開催し、協議会でまとめた報告書の内容を地域へ説明する予定となっている。
- 地域とのやりとりは、地域説明会を実施して終了とするのではなく、庁内案が完成するまでの間、継続的に意見交換を行っていくことが資料に明記されている。
- 令和8年度は、活用に向けた「トライアル（お試し）」を実施しながら、民間企業へのサウンディング（対話）も並行して行う計画となっている。
- 地域との意見交換は、地域の代表者を窓口として進めていく方針である。
- 令和8年度末には、実施したトライアルの結果を精査・評価し、それらを踏まえて「庁内案」を完成させるスケジュールとなっている。

- 令和9年度には、完成した庁内案を再度地域へ説明した上で、実際の運営者の募集へとつなげていく流れである。
- 報告書（資料2）については、前回のたたき台をもとにした意見交換の結果を反映しており、大きな変更はないが、最終的な整合性を確認してほしい。

（委員）

- 長浦小学校と田浦小学校が統合された際、卒業生が両校の校歌を歌い喜んでいた姿を受け、地域の一体感を強く感じた。
- 今回の跡地活用における「トライアル（お試し利用）」についても、対象範囲を田浦地区に限定せず、統合後の新しい校区やより広い範囲まで拡大して検討すべき。
- 広い範囲を対象に説明や周知を行うことで、より多様な参加や新しいまちづくりにつながるのではないかと感じる。

（ファシリテーター）

- 新しい小学校の校区全体を視野に入れた、一体的な地域づくり・まちづくりという観点からは非常に重要だと思う。
- トライアルの対象範囲を広げることに、市側の考えを確認したい。

（事務局）

- 将来的には市外も含めた広範な活用も考えられるが、まずは「トライアル」という性質上、ある程度の範囲を限定して進める必要があると考えている。
- これまで委員からいただいたご意見も踏まえ、まずは地域に根ざした形で着手したい。

（委員）

- 学校施設開放については、現在、体育館は田浦に関わる人間のみで利用している。
- しかし、最近になって長浦のバレーボールチームから利用希望があり、子どもたちは既に統合で一緒になっていることから、来年度から参加してもらおう方向で進めている。

（ファシリテーター）

- トライアルの募集や選定の過程において、「田浦のためになる活動であること」という条件は必要だが、エリアを厳格に限定しすぎる必要はないと思う。
- 募集要項や選定基準を作成する際、柔軟なエリア設定について検討することが望ましいと感じる。

（委員）

- 地域がすぐに実施できそうな要望（グラウンドの花壇整備など）への対応は、トライアルの中に含まれているのか。
- 地域説明会の際に、そうした即応可能な項目についても説明されるのか確認したい。

（事務局）

- 花壇整備などの要望については、校舎の活用も含めて現在検討を進めている。
- 地域説明会までには内容を整理し、住民へ説明できるよう準備を進める。

(ファシリテーター)

- 報告書案では、トライアルを「今すぐできること」と「新たな活動としての試行」の2系統で整理している。
- 地域説明会や今後の検討段階においても、この2つの方向性を明確に示していくことが望ましい。

(委員)

- 約1年間にわたる全6回の協議会を通じ、各委員は地元住民の意見を集約してきた。
- 4月29日の地域説明会が最終決定ではないため、地域住民の意見を真摯に聞き、必要に応じて修正を行いながら進めるべきである。
- 住民や各団体にとって、実際に施設がどう使われるか、トライアルがどう実施されるかは非常に関心の高い事項である。
- 網代小学校（熱海市）の視察では、自治団体にプランや運営・管理を任せている点が非常に参考になった。田浦小学校の跡地活用においても、そのような手法を採用すべきと感じた。

(ファシリテーター)

- 地域の皆さんにとっては、4月の説明会が議論の出発点となる。その後の意見交換の進め方には十分に注意を払う必要がある。
- 網代の視察結果（良い点・悪い点）についても、田浦の活用にどう活かすかをまとめ、地域にフィードバックしていくことが望ましい。

(委員)

- 今後のスケジュールで本格稼働が令和11年度となっているが、最速で進めた場合でも非常に長い期間を要すると感じる。
- 最速で進める中で、どのような問題や課題の発生が想定されるのか。

(事務局)

- 施設改修に要する期間は改修の内容によって変動する可能性があり、また大きな課題として、活用内容によっては、都市計画法に基づく規制緩和の手続きが必要となる。
- この手続きは市長の判断のみで完了するものではなく、近隣住民の理解を得たうえで、都市計画審査会の同意を得る必要がある、スケジュールにも大きく影響を与える可能性がある。（緩和手続きは令和9年度頃の実施を想定）。
- 先日の網代小学校の視察においても、同様の手続きにおいて困難な部分があったと聞いている。

(委員)

- トライアルの募集（4月～12月実施予定）について、地域説明会の際に住民へ募集をかけ、市へ応募するよう案内する形になるのか。

(事務局)

- 地域説明会の場で、トライアルの募集についても説明を行う予定でいる。

- 対象範囲をどこまでとするかは検討の余地があるが、正式な案内は町内会への回覧板等を通じて実施したいと考えている。
- 地域説明会で案内できるよう、検討を進めていく。

(ファシリテーター)

- 地域からは「すぐにでもやれることは始めたい」という要望が強いと思われる。
- 新たなトライアルは制度設計に時間を要する可能性があるが、即実施可能な事項については前倒しで進めるなど、地域の意向に沿った柔軟な対応を検討すべき。

(委員)

- 校舎・校庭・体育館の3つのエリアについて、今後のトライアル期間における管理体制や進め方をどう考えているのか。
- 現在、校庭や体育館は体育振興会が一定の管理を担っていると思われるが、今後の運用の詳細を確認したい。
- 施設の利用手続きについては、再三要望している通り、可能な限り簡素化し、容易に使用できる仕組みにすべきである。
- 視察した網代小学校のように、放課後に子どもたちが自由に入って野球ができるような、管理者がいなくても柔軟に活用できる形が理想である。行政として割り切れない部分もあるだろうが、柔軟な対応を強く求めたい。

(事務局)

- トライアル期間中も、既存の体育振興会による体育館利用など、従前からの活動に支障が出ないように調整を行う。
- 基本的には、既存の活動時間以外の空いている時間枠を活用してトライアルを進めていく考えである。

(委員)

- 教室の利用を希望しているが、現状では手続きが簡素化されているとは思えない。鍵の貸出し場所や教室の清掃状況も不明確である。
- 手続きが煩雑だと、結局は使い勝手の良い既存の自治会館などを利用することになり、学校跡地が使われない方向に向かってしまう懸念がある。
- 行政センターの窓口に行けばすぐに鍵を貸出し開錠できるような、簡素な仕組みを構築すべき。

(事務局)

- トライアルの目的は、地域の方々に実際に使ってもらうことにある。
- 委員の指摘を真摯に受け止め、地域住民が利用しやすい形になるよう、手続きの簡素化を検討している。

(ファシリテーター)

- 現状で使いにくい点があれば積極的に意見を出してほしい。
- この機会に、地元と意見交換をしながら、地域にとって使いやすい簡素な手続きのあり方を考えていくことが望ましい。

(委員)

- 視察した網代小学校の運営者のように、地元愛が強く自ら立候補するような人物がいれば、運営は非常にスムーズに進むと考えられる。
- 最も早期に実施できそうなのはグラウンドの開放である。網代小学校では「怪我は自己責任、団体利用は責任者が対応」というルールで運用されており、参考になる。
- 子どもが遊ぶ際、老朽化した鉄棒などの遊具は怪我の発生率が高いため、予算の問題はあるが、開放に先立って撤去しておくことが望ましい。
- 令和9年度に予定されている運営者の募集について、対象を田浦地区に限定するのか、あるいは広く公募するのか、どのような人物が適任と考えているか。

(事務局)

- 遊具については現在、安全上の理由からテープを巻いて使用禁止にしているが、決して良い状態ではない。グラウンドの利用とセットで安全対策を検討する必要がある。
- 運営主体については公募を想定しているが、報告書案9ページに「地域が運営に携われること」を基本的な考え方として盛り込んでいる。
- 募集の際、運営団体の中に必ず地域住民が入るようにするのか、あるいは運営プロセスに地域が関わる仕組みにするのかなど、条件の付け方を検討していく。
- 網代の事例では、一度地域を離れた後に戻ってきた方が熱意を持って運営しており、そのような関わり方も一つのモデルになると考えている。

(委員)

- トライアル（試行利用）を実施するにあたって、消耗品（トイレトペーパー等）一つに至るまで、必要最低限の予算措置が不可欠である。
- 報告書には、具体的な数字とまではいかなくとも「運営には必要最低限の予算が必要である」旨の文言を明記すべき。

(事務局)

- 施設利用にあたり、必要最低限の予算を確保すべきとのご意見はもっともと考えている。
- この報告書は、あくまで地域が検討した「跡地活用の方向性」を市に示すものであるため、地域の総意としてのご意見・要望であれば、市側が記載を拒むものではない。

(委員)

- 資料5ページの「跡地に求める機能・カテゴリーと施設の具体案」において、すぐに実施しやすい取り組みとして「子どもの遊び場」などが挙げられているが、現実には管理者が不在で子どもが立ち入れない状況にある。
- 本稼働に至るまでの必要最低限の予算（人件費やトイレトペーパー代など）を誰がどのように決めるのかが曖昧な点を危惧している。
- 教室の利用も、Wi-Fi 設備がないなどの環境不足があれば、結局は利用されない。具体的な活動案を実施するために何が必要かを同時進行で検討すべきである。
- 協議会としては「具体的な案に対する必要最低限の費用が必要である」という旨の文言を報告書に追記することを求めたい。
- 視察の結果からも明らかだが、活動がボランティアレベルに留まらず、持続・独立するためには収支の柱が必要になる。

(委員)

- 体育館清掃に使用するモップの維持費が年間約8万円かかっているが、以前支給されていた報償費が廃止されたため、現在は学校開放団体が負担している状況にある。
- トイレトペーパーや掃除道具についても、現在は学校側からの提供ではなく、開放団体が自費で購入している。

(ファシリテーター)

- 施設の最低限の維持・運営経費は市から出せるものの、収益を生むような本格的な運営に対する予算確保は、来年度のトライアル段階では難しいとの認識で良いか。

(事務局)

- 活動内容には、相当のコストがかかるものもあれば、地域住民の協力によって実施可能なものもあると考えている。
- 図書室や花壇のボランティア、文化芸術活動での利用など、現状でも地域主体の取り組みが検討されている。
- キッチンカーの出店など、イベント的な活動から得る収益については一つの事例として実績があるので暫定利用時にも問題ないと考えているが、運営そのものへの公費による予算措置については、今後の検討課題となる。

(委員)

- お試し利用（トライアル）において、コーディネーターが不在のまま先着順で施設利用を認めると、全体的な使い方がちぐはぐになる懸念がある。
- お試し利用期間中における、全体の取りまとめや配置を検討するコーディネーター機能のあり方について確認したい。

(事務局)

- 先着順での受付は不公平感が生じ、活用のバランスを欠く可能性があると考えている。
- 対応策として、一定の募集期間を設けて、応募のあった団体間で利用調整を図る仕組みを検討しており、少なくとも、単なる「手上げ順」にはならないよう調整を行いたい。

(ファシリテーター)

- 将来的には専門のコーディネーター機能が必要になると思われるが、当面のトライアル期間については、市が窓口となり、一定期間の応募を調整する形で進めるということ想定しているものである。

(委員)

- コンセプトの「共創モデルとして他地域にも波及すること」に同意するが、現状のスケジュール感では従来の横須賀市の進め方と変わらないと感じる。
- 今後、閉校となる学校が急増し、数年後には多くの跡地の発生が見込まれる中で、行政側もイノベーションを感じながら我々の意見を取り入れるべきである。
- 従来のやり方に捉われない進め方により、このスケジュール感も変えていけるのではないか。

(事務局)

- 今後、再編対象となる学校が増えていくことは認識している。
- これまでの事例（旧坂本小、旧上の台中、旧光洋小など）は市主導による売却を前提とした進め方が主であったが、今回のように地域の声を聞きながら跡地のあり方を考える手法は、旧走水小と旧田浦小が初めての取り組みとなる。
- そういう点では、試行錯誤になるため慎重に進めている面はあるが、提示したスケジュールの中でも、行政の努力によって施設改修等のプロセスを短縮できる部分がないか検討したい。

(委員)

- 地域の中心にある学校がなくなることはまちの衰退に直結するため、スピード感を持って跡地活用を進めていくべき。
- 報告書5ページの福祉カテゴリーには「重層的支援活動拠点」という文言を明記することを求めたい。田浦には社会館があり福祉への関心が高い地域のため、まちづくりと福祉が連携できる拠点を目指すべきである。
- 施設利用の際の鍵の管理は極めて重要である。視察先の網代小学校で導入されていたスマートキーのように、住民が使いやすい仕組みを構築しなければ、トライアルへの参加意欲が削がれる懸念がある。

(事務局)

- 使いやすい仕組みにしていくことが大切であるという点をご指摘のとおりで、鍵の管理を含め、利用者が負担を感じないような事務手続きのあり方を検討する。

(委員)

- 報告書6ページの活用イメージにおいて、「次につながるよう早期解体を求める」との記載があるが、この「次」が何を指し、誰がどこで検討しているのか不明確である。
- 本協議会の冒頭ではハード・ソフト両面からフラットに議論するはずであったが、早期解体という予算に絡む文言が記載されている経緯を確認したい。
- 地域説明会において「跡地の次はどうなるのか」と問われた際、具体案がないままに期待感を持たせるような表現は、住民に誤解を与える恐れがある。

(事務局)

- 現段階で跡地の具体的な用途について決定している事項は、市役所内においても一切存在しない。
- 指摘の通り、現状の表現では「次に何か具体的な計画がある」という誤解を招く可能性があるため、文言の修正を検討する必要がある。
- 地域説明会で住民から質問があった際にも、本協議会での議論内容に齟齬がないよう、適切な回答と表現に努める。

(委員)

- 地域説明会で提示されるスケジュール表について、各項目の時期が「上期・下期」という表記では、具体的な月（例えば4月や5月など）をイメージしにくい。住民がより直感的に理解できるよう、具体的な月を明記すべきである。

- スケジュールの12番にある「施設改修」という項目は、いずれ何か新しいものができるという期待を抱かせるが、その認識で相違ないか確認したい。

(事務局)

- スケジュールについては、提示した内容で説明を行う予定でいる。
- 施設改修については、最終的に決定した活用案の内容に沿ったものとなる。活用案を実現するために現状の施設では対応できない場合に改修を行うものであり、現時点で具体的な改修内容が決まっているわけではない。
- あくまで「活用案に応じて改修を行う可能性がある」という前提で、地域に説明を行う。

(委員)

- スケジュールでは、現在から3番の項目まで「暫定利用」を示すオレンジの線が伸びているが、現在は暫定利用中であるとの認識で間違いないか。
- 「暫定利用」と「トライアル」には、意味合いにどのような違いがあるのか確認したい。

(事務局)

- 委員のご指摘のとおり、現在は暫定利用の期間中となる。
- 「暫定利用」とは、学校として運営されていた時から継続して利用している、主にスポーツ活動等の団体による活動を指している。
- 対して「トライアル」は、今後の跡地活用に向けて、新たな活用の可能性を探るために実施する取り組みを指しており、両者の趣旨やイメージを分けて整理している。

(委員)

- 全6回の協議会を振り返り、スケジュールにスピード感が欠けていると感じる。
- 地域の中心部が空洞化している現状を重く受け止め、跡地が放置されることのないよう、迅速に事業を進めるべき。
- 今後、本提案書を基に市役所内で議論・決定を行う者は、従来の行政判断に捉われず、イノベーションの感覚や高い知見を持って臨むべき。
- 今後、同様の跡地案件が増加することを見据え、市職員や議員を含め、質の高い議論が行われることを強く求めたい。

(事務局)

- 行政の仕事を最終的に予算の面から決定していく権限は議会にある。
- 今後は議会に対しても、本協議会で出された意見や地域の想いをしっかりと伝えていく。
- 田浦行政センターは、地域の思いを普段から聞いている。また、事務局だけで進めるのではなく、専門職員や地域情報に詳しい職員など、多様な職員の知見を活かし、それらの体制を活用して議会に提案していきたい。

(ファシリテーター)

- 本協議会で出された多様な意見を踏まえ、最終的に報告書へ反映・修正を行う必要がある。
- 本日が最終回となるため、報告書の具体的な修正内容については事務局に一任し、後日各委員にフィードバックする形で承認をいただきたい。

- 最後に各委員から一言ずつ、感想や今後の活用に向けた期待などの言葉をいただきたい。

(委員)

- 当初、西側の校舎を解体し、防災機能を強化した新しい体育館を建設してほしいという意見が多く出されたが、予算等の関係で実現しなかったことは非常に残念に思う。
- 今後は提示された方針の中でトライアルを実施し、発生する不具合などを踏まえながら、より良い本格運営の方向に進むことを期待する。

(委員)

- 西側校舎を解体してコミュニティセンターのような施設を作り、そこにボランティアセンターや会議室を設けることで、町内会が集まれる拠点になることを望んでいたため、実現しないことに困惑している。
- 体育館の利用は現状スムーズだが、教室を利用しようとする手続き等が大変になるのではないかと危惧している。
- 地域住民が校舎を簡単かつ円滑に借りて利用できるような仕組みを構築してほしい。

(委員)

- 近隣の小学校でも卒業生が30名を切るなど少子化が顕著であり、かつて1学年が数百人規模だった時代と比較して状況が大きく変化している。
- 小学校の統合・跡地活用で議論が紛糾しているが、今後は中学校においても同様の問題が確実に発生する。
- 跡地活用を個別に議論するだけでなく、小中一貫校のあり方や教育部門としての将来ビジョンを市が明確に示してほしい。
- 横須賀の子どもたちや学校の将来像という全体像（グランドデザイン）が示されることで、跡地問題の解決もよりスムーズに進むと考える。

(委員)

- 小学校の跡地活用において、地域と一体となって進める手法は初の試みであるため、最初から100%完全な形を目指すのは困難だと思う。
- 試行錯誤（トライアル）を繰り返しながら、より良い形へ近づけていってほしい。

(委員)

- 視察した網代小学校は、閉校から3～4年経過してもなお「道半ば」という印象であった。
- 網代のような熱意ある運営者が関わっていても、完成までには10年は要するという話もあり、田浦小学校の跡地活用についても長期的な視点で取り組む必要がある。

(委員)

- 網代は海や山があるなど地勢が田浦と酷似しており、広域避難地のあり方などが参考になる。
- 田浦も海に面しているが立ち入りが制限されている現状がある。網代での釣り解禁に向けた動きなどの事例を踏まえ、活用のあり方を検討していってほしい。

(委員)

- 店舗の閉店プロジェクトに携わった経験から、新しいものを作るよりも閉じることの方が非常に難しいとの認識を持っている。
- 地元の方々の意見をよく聞き、それを組み上げて大きな一つの方向性を作っていくことが必要である。
- 横須賀市内で今後、学校の閉校・統合が増加する中で、議会側に教育に関する常任委員会などの議論の場があるのか確認したい。

(事務局)

- 教育に関する常任委員会が存在し、そこで学校再編に関する検討・説明を行い、議員から意見をいただくプロセスを繰り返している。

(委員)

- 1年間を通じ、若輩者として多々発言してきたが、縁もあり本協議会に参加できたことに感謝している。
- 今後のトライアル等においても、多様な意見を持つ住民は多い。肩書きがなくても意見を言い合える場になることが、跡地活用やまちづくりにとって重要である。
- 引き続き、住民の声に耳を傾けていただくことを強く求めたい。

(委員)

- 1年間という期間は、長いようで短かったと感じる。
- ようやく報告書が出来上がったという感慨がある。
- 自身の住居（田浦の月見台より高い場所）からは田浦小学校が真下に見え、思い入れがある。
- 報告書が出来上がり協議会は終わるが、これからがスタートであり市担当者にはしっかり議会に説明し地域の思いを実現に向け頑張っていたいただきたい。

(委員)

- 提示されたスケジュールについて、諸手続きが必要であることは理解するが、もう少し早く進められないかという思いがある。スケジュールに捉われず、前倒しできるものは迅速に対応して欲しい。
- 取りまとめた報告書が議会で否決された場合、白紙に戻るのかといった懸念がある。
- 節目ごとの進捗状況については、メール等を通じて各委員へ報告される仕組みを考えてほしい。

(ファシリテーター)

- 行政側に事前の腹案がない中で、地域住民と対話を重ねながら案を作り上げていくというケースは非常に稀で、これまでの事例とは大きく異なり、ある意味イノベーションとも言える取り組みであった。
- 地域と行政が対立するのではなく、同じ方向を向いてより良い地域を目指していくことが重要になる。
- 今後は本報告書を行政案として確立し、議会での承認を経て実現させていくフェーズに入るため、引き続き行政と地域が連携して取り組むことを期待する。

- 1年間にわたる協議会への協力に対し、感謝の意を表す。

(事務局)

- 皆様ありがとうございました。以上で本協議会を終了とさせていただきます。

5 閉 会

(FM 推進課長)

- 本日も長時間にわたり会議にご出席いただきありがとうございました。また、初回から約1年間という長期にわたり、様々な角度からご意見をいただきました。この協議会を、そういった形で進められたことを、重ねてお礼を申し上げたいと思います。
- 今後、協議会からいただいた報告書に掲げられた内容については、できるだけ早く実現できるように、横須賀市として具体化の検討・調整を進めていく、その段階に入っていきます。その検討を進めるにあたっては、協議会で検討した報告書を基本とさせていただきますつつ、地域にお住まいの方々のご理解をいただくことや、実際にお試し利用に取り組むこと、それから事業性を評価すること、あとは先ほど少し申し上げた法令上の課題を整理することなど、いくつか対応していかなければならないプロセスがあります。
- 検討協議会としては、これで一区切りとはなりますが、今後も、跡地活用の検討は続いてまいります。協議会委員の皆様には、今後もぜひお力添えをいただける場面があると幸いです。その際にはぜひご協力いただきますようよろしくお願いいたします。
- あらためまして、これまでご理解、ご協力をいただき、本当にありがとうございました。田浦地域が、学校跡地を拠点として、未来を描ける、そんなまちになれることを、祈念いたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

以 上